

マルトミです

12月号 (隔月刊)

この一年の御愛顧 誠に有難うございました。



平成22年ももうすぐ幕を閉じようとしています。皆様にはこの一年、いかがお過ごしでしたでしょうか。

今年の気候は、寒い春と酷暑の夏のダブルパンチで、農家の皆様は大変ご苦労されたことと思います。ここ何年か、異常気象が当たり前のようになっていて、穏やかな季節の巡りというものを忘れてしまいそうですが、それにしても今年の天気は異常でした。日本では無縁と思っていた竜巻の発生が何度もニュースになったのも初めてではなかったでしょうか。

それに加えて、日本の政治も天気には負けないほどの異常事態になっていて、国内的にもまた国外に対しても心配が尽きない年でした。でも、もうこれ以上悪いことは起こりようがないと思うので、来年は逆に明るいニュースが増えることに期待したいものです。

今年も、当社に格別のお引き立てを賜り、誠に有難うございました。

来る平成23年が皆様にとってより良き年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

(当社では平成15年より年賀状によるご挨拶を廃止させて頂きました。何卒ご理解のほどお願い致します。)

マルトミカレンダー (12月 ~ 2月) 赤色は休業日

12月							1月							2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1				1	2	3	4	5
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	27	28					
							30	31												

※ 1日 創立記念日

※ 12/30~1/4 正月休業

◎ 冬期間は降雪の状況により、除雪機修理対応のため休日も臨時営業致します (12/31~1/2 は除きます)。

(株)マルトミ 本社: 943-0873 上越市西田中2-3-6-9 (企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

E-mail: info@maru-takada.com ホームページ www.maru-takada.com

除雪機の安全な使い方

昨冬は久しぶりの大雪という状況の中、各地で除雪中の事故、なかでも除雪機による事故のニュースが伝えられました。

ただ、最近の除雪機はどのメーカーのものでも十分に安全対策が施されているため、普通にご使用いただく限り事故の心配はまずありません。人身事故の多くは十分な安全装置が備えられる以前の除雪機の使用によるものと思われる。

とはいえ、硬い雪を砕いて遠くに飛ばす強力な機械ですから、使うのに注意が必要なことは言うまでもありません。除雪のシーズンを迎え、新しい除雪機でも古い除雪機でも関係なく、これだけは守っていただきたいポイントを3つだけあげておきますので、ぜひご確認をお願い致します。

① ハンドルから離れるときは必ずエンジンを止めること。

基本中の基本です。これさえ守っていただければまず事故は起きず怪我することはありません。

② 除雪機のオーガ一部分(雪を掻き込むところ)やブロア部分(掻き込んだ雪を飛ばすところ)に触れるときは、エンジンが止まっているだけでなく、その部分が完全に止まっていることを確認する。

ふつうはエンジンを止めるとオーガとブロアもすぐに止まりますが、ブレーキの効きが悪くなりしばらく惰性で回っている場合もありますので、一応ご確認下さい。

③ 熱くなっているマフラーに触れないこと

とくに小型の除雪機はエンジンのマフラー(排気筒の部分)がむき出しになっている機種が多く、エンジンを止めた後もしばらくは熱い状態になっていますので、手を触れないようご注意ください。

それから、作業中 除雪機の周りや雪を飛ばす方向に人や車などがいないことを充分確認してください。とくに雪の中に小石などが入っていると遠くに飛んで大変危険です。

※ 除雪機の使用法などでご不明の点があれば、何でもお気軽におたずね下さい。

除雪機の点検・修理はお任せ下さい。

降雪前の点検も、時期中の修理対応も、除雪機のことなら何でもお任せ下さい。迅速・丁寧・低料金にて対応させていただきます。

また部品類も豊富に取り揃え、在庫のない場合でも迅速にお取り寄せ致します。ご注文は、聞き間違いを防ぐため、できるだけご来店いただくか、FAX、メールでお願い致します。

今年の行事を振り返って

今年も例年同様、春、夏、秋と3回のイベントを開催致しました。ご来場くださった大勢の皆様にご心から御礼申し上げます。

春と夏のイベントでは、今年も機械の展示販売のほかに、多くの皆様がお店を出したり、教室を開いたりして会場を盛り上げて下さいました。毎年これを楽しみにして下さるお客様も多く、当社の行事としてすっかり定着しました。

また、秋の除雪機中心の展示商談会も、昨冬の大雪でご苦労されたことから大変多くのお客様にご来場いただきご成約いただくことができました。本当に有難うございました。

今後も、皆様楽しんでいただけるイベントを各種実施してゆきたいと思っておりますので、どうかまたご来場下さいますようお願い致します。



除雪機の売切れ機種が多くなりました。

ある程度予想されていたことではありますが、昨冬の大雪により今年は春から除雪機の販売が好調で、早くから品切れの機種が出始めました。現在すでに全メーカーとも品薄で、特にホンダの除雪機については品切れの機種が多くなっています。在庫のある機種についても残りはお少なくなっておりますので、購入をご検討されている方はぜひお早めにご相談願います。



お客様訪問

上越市牧区 秋山義孝 様

この度、なんと当社のお客様が歌手デビューされました。牧区にお住まいの秋山義孝さんです。秋山さんは地元の森林組合にお勤めのかたわら、長年歌の勉強をされてこられました。その甲斐あって今年11月に秋山みのるの芸名でデビュー、ビクターエンタテインメントからCDが発売となりました。

なかせ酒、流れ舟の2曲で、ともに渡邊千幸先生が秋山さんのために作ってくださった曲だそうです。秋山さんは現在68歳、ご本人は遅いデビューと笑っておられますが、これは本当に素晴らしいことだと思います。

CDのご注文、お問い合わせは下記まで。どうかよろしくお願ひします。

牧区田島702子 秋山義孝 TEL(025)534-2401



湿原の宝石 オオルリハムシ

トゲトゲ、カメノコハムシと続けたハムシの話し、最後はオオルリハムシです。

私は昆虫が大好きで、ジャンルを問わずに標本を集めていますが、ハムシはあまり好きではありません。色はきれいなものが多いものの、形があまりに平凡だったり、どこにでもやたらといっぱいいて蒐集欲が刺激されないのです。そんな中での数少ない例外がトゲトゲとカメノコハムシであり、もう一つがこのオオルリハムシです。



撮影：小日向 洋平

オオルリハムシは日本では本州だけにおいて、それもどこにでもいるわけではなく、食草のシロネの生える湿原を中心に各地に点々と分布しています。ハムシの仲間では最大種で全長は1.5センチくらい、形はごくふつうのハムシ型です。色については、おおざっぱに言うと、日本海側にすむものは青(藍色)で、太平洋側にすむものは赤(朱色)です。ですからこの種名は日本海側のものを見て名づけられたはずで、もし先に見つかったのが太平洋側のものだったらまったく別の名前になっていたでしょう。

この虫の魅力は、湿地という特殊な環境にすむためそれぞれの産地が孤立していて、互いに交流のないまま永い時が過ぎた結果、それぞれの地域ごとに別々の色彩になっていること、所謂、色の地域変異が大きいことです。上越地域にすむ個体群は日本海側の青色グループに含まれますが、その色調はさまざまで単純ではありません。その中で一番多く見られるタイプは、輝く藍色に緑色のストライプが入ったとても美しいものです。おそらくオオルリハムシの中でも最も美しいタイプと言っていると思います。

かつては大潟区の鶴の池が多産地として知られていて、歩道のわきの湿地に生えたシロネの葉上に無数の個体が群がっているのを私も見たことがあります。現在そこではまったく見ることはできません。10年ほど前に、公園を造るための工事でその周辺のシロネがすべて刈り払われたことが原因と言われています。それでもまだどこかで生き延びているはずと、大潟水と森公園のパークレンジャーの皆さんも探していますが、食草のシロネは復活しているものの、今のところ再発見できていません。

他にも何カ所か産地があったのですが、湿地そのものが失われて行く中で残念ながら次々に姿を消してしまい、現在上越ではっきり生息が確認できている産地は2か所だけです。でも、昆虫の場合、特に最近はまだまった分布調査などほとんどされていないので、まだ知られていない産地は必ずあるはず。皆さんも、もしどこかで湿地に生えているシロネを見かけたらぜひ探してみてください。大きくて色も目立つので、いればすぐに見つかります。それを見たら、宝石のような美しさという表現が決して大げさでないことがきっとわかっていただけることでしょう。

(ミ)